学校感染症について

出席停止の対象となる病気及び出席停止期間の基準

分類	対象疾患	出席停止の基準
第1種	(*)	治癒するまで
第2種	インフルエンザ	発症後5日かつ解熱後2日が経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗生剤による治癒が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで
	風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで
	水痘（水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状の消退後2日を経過するまで
	結核	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師が感染の恐れがないと認められるまで
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎	病状によって医師によって感染の恐れがないと認められるまで
	溶連菌感染症 手足口病	適正な抗生剤治療開始24時間を経て全身状態が良ければ登校可能 発熱や咽頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
	その他の感染症 感染性胃腸炎 マイコプラズマ感染症 伝染性紅斑 ウイルス性肝炎 ヘルパンギーナ	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可 急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可 発疹（リンゴ病）のみで全身状態が良ければ登校可能 A・E型：肝機能正常化後登校可 B・C型：出席停止不要 発熱や咽頭・口腔の水疱・潰瘍を伴う急性期は出席停止、治癒期は全身状態が改善すれば登校可
	アタマジラミ 伝染性軟属腫（水いぼ） 伝染性膿疱瘡（とびひ）	出席可能（タオル、櫛、ブラシの共用は避ける） 出席可能（多発発疹者はプールでのビート板の共用は避ける） 出席可能（プール、入浴は避ける）

* 第1種学校感染症：エボラ出血熱、コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マーブルブルグ熱、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、急性灰白髄炎（ポリオ）、鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群

【その他の感染症とは】

学校で流行が起こった場合にその流行を防ぐため、必要があれば学校長が学校医の意見を聞き、第3種の感染症として措置をとることができる疾患です。出席停止の指示をするかどうかは、感染症の種類や各地域、学校における感染症の発生・流行の態様などを考慮の上、判断する必要があります。条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症の例です。